

# 秋起こしのポイント

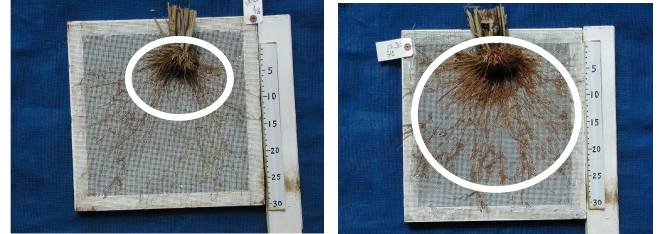
～下層まで根を張らせ稲体の活力を維持しましょう～

## ■現状より 5 cm 深耕しよう。

管内の圃場を見渡すと作土深 10cm 程度の圃場が多くみられます。今より 5 cm 深く、15 cm 程度まで深耕することで根の生息域が広がり、水分や養分を吸収しやすくすることで収量が増加や胴割粒の発生軽減効果があります。

現状は・・・

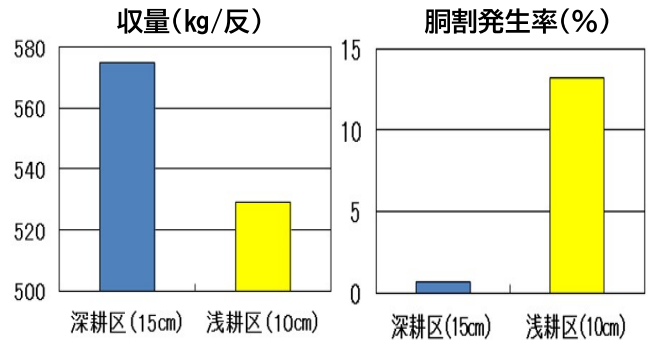
- ・作土深15cm以上の圃場は約3割程度
- ・平均の耕深は、10cm程度
- ・耕起時のトラクタ速度は、0.4m/秒と早い



深耕 8～9 cm

深耕 14～15 cm

速度 (m/秒)	耕深 (cm)
0.25	14～16
0.34	12～14
0.50	10～12



速度は0.25m/秒:歩く速さの1/4程度

## ■土づくり資材(ケイ酸質資材)を投入しよう。



稲が土壤から吸収する成分の中で最も多いのはケイ酸です。前作で吸収した分を補給するため、ケイ酸質資材(ケイカル・しきぶホワイト等)の投入により地力UPを図り、登熟後半まで根の活力を維持できる強い稲体をつくりましょう。

管内圃場の土壌分析結果より

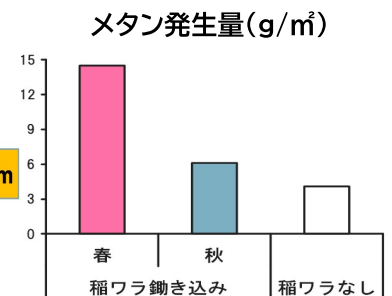
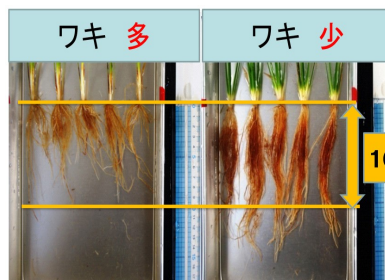
ケイ酸のはたらき

1. 登熟を向上させ、粒張りや品質の向上
2. 高温障害(乳白米)の軽減
3. 病害虫に対する抵抗性の向上
4. 耐倒伏性の向上

## ■暖かいうちに秋起こしを実施し稲わらの腐食を促進しよう。

稲わらをすき込むことで、堆肥の施用と同等の効果が期待出来ます。

また、秋の暖かいうちに実施することで稲わらの腐食を促進し、根の伸長に影響を及ぼすワキ(メタン)の発生を抑制できます。



秋起こしは気温の高い10月中に実施！！

# 大麦栽培のポイント

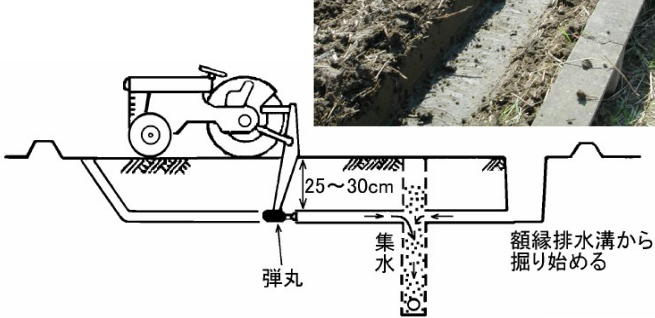
大麦の播種時期が近づいてきました。以下の事項に注意し、収量・品質の向上を図りましょう。

## 【万全の排水対策】

播種前の圃場準備は、排水対策を徹底しましょう。

### 【額縁排水】→【サブソイラ】→【排水溝】

- ・収穫後、できるだけ早く設置し圃場を乾燥させる。
- ・排水溝は深さ 25~35 cm 確保する。



屋根  
4本柱

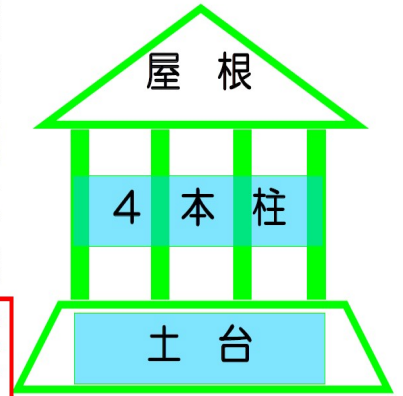
適期収穫

- ①適期播種
- ②基肥
- ③除草
- ④防除

土台

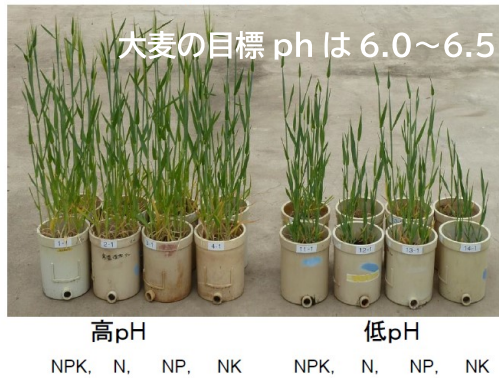
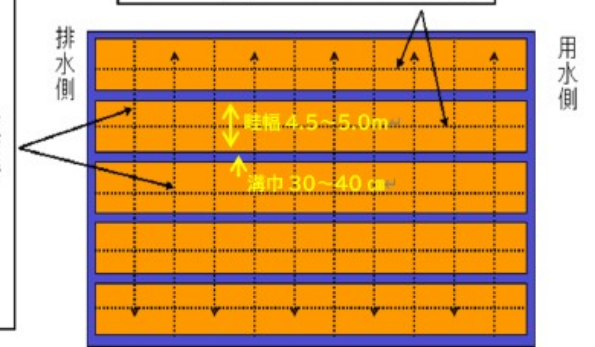
排水対策  
酸度矯正

収量・品質の向上



暗渠と交差した補助暗渠  
(標準)

(追加)暗渠に平行の補助暗渠



大麦の目標 pH は 6.0~6.5

## 【酸度矯正】

大麦は酸性を嫌う作物で、好適 pH は 6.0~6.5 とされています。安定生産のため、石灰質や苦土を含むアルカリ資材で土壌酸度を矯正しましょう。

pH5.0 以上:

らくらく麦豆 80 kg または  
マグエース(粒)100 kg か 苦土石灰(粒)130 kg

pH5.0 未満:

らくらく麦豆 80 kg+苦土石灰(粒)130 kg

## 【適期播種】

早期播種や施肥量・播種量過剰は穂数過多となり、細麦化や硝子率増加を招くので、適期播種に務め追肥等の過剰施用は避けましょう。また、悪天候時や土壌水分が高い時の無理な播種は避けましょう。

### ■播種開始時期■

平坦地:10月10日

山間地:10月5日

播種適期幅 10日間程度

